



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



動物愛護週間コーナーの紹介

9月20日～26日は動物愛護週間です。同週間は、動物の愛護や適正な飼養について広く理解・関心を深めてもらうために毎年行われています。身近なペットも絶滅が危惧されている動物も、当然ながら大切な命です。今月は動物を身近に感じられる



▲動物愛護週間コーナーにぜひお越しください

ような図鑑やペットの飼い方、生き物の多様性をテーマにしたものなど、動物愛護を考えるきっかけになるものを集めました。この機会にご家族で動物愛護について話し合ってみてはいかがでしょうか。

0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

日時

9月14日(木) 午前10時30分～

会場

おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター図書室内)

新着図書紹介

小説



乱菊

辻堂 魁 著/光文社

18歳の春、首斬人として生業を継いだ別所龍玄。不浄だが清々しい男の矜持と家族への慈愛、武士の無念を描いた、気迫と感涙の時代小説です。「両国大橋」「鉄火と傳役」など全4話を収録。読み応えのある1冊です。



アリアドネの声

井上 真偽 著/幻冬舎

巨大地震が発生。地下の危険地帯に取り残された女性は、目が見えず、耳も聞こえない。崩落と浸水で救助隊の侵入は不可能で、タイムリミットは6時間。運命はドローン操縦のハルオに託され…。感情を揺さぶられる1冊。



あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

汐見 夏衛 著/スターズ出版

家を飛び出した中2の百合。目をさますと、そこは戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰に助けられた百合は、彼に惹かれていくが、彼は特攻隊員で…。戦争とは何かを考えさせられる1冊。今年12月公開映画の原作。

一般図書



うちの犬が認知症になりました

今西 乃子 著/青春出版社

夜になると激しく遠吠えするようになった17歳の未来(柴犬・メス)。あっちこっちトイレなど初めてのことに戸惑っていた飼い主が、老犬と暮らすコツを紹介。認知症対策や介護の知恵など、「老いじたく」のヒントが満載。



ぼくはあと何回、満月を見るだろう

坂本 龍一 著/新潮社

世界的音楽家、最後の言葉。自らに残された時間を悟り、教授は語り始めた。創作や社会運動を支える哲学、国境を越えた多彩な活動、坂本家の歴史と家族に対する想い、ガンと共に生きること…。最晩年までの足跡を未来に遺す自伝。



水中ミステリー

井上 たかひこ 著/東京新聞出版

龍馬のハッタリ、クレオパトラの謎、タイタニック探査の裏話…。謎に包まれた文明や人類のいとなみを示す物的証拠が数多く埋没している水中の遺跡。それらを研究調査する、日本の水中考古学の第一人者が紹介します。

永いこと「陣ノ内館」として親しまれていましたが、新しく「陣ノ内城」と呼称が変わり2年になろうとしています。壮大な陣容を誇ることから権力の度合も大方想像できます。そこで別の角度からものを見るのも面白いと思い、この周辺の植物について述べてみました。

まず、春先になると白い可憐な花「スズシロソウ」が私達をお出迎え。最近では温暖化のせいか少し早いような気がします。暑い時はドングリ(クヌギ)の大木が、日陰を演出してくれます。風が吹いた時のオドリコソウのピンクの花びらが揺れる姿は見事です。近年よく外来種の問題が取り沙汰されていますが、この壮大な敷地であって「ススキ」は、まだ外来種の「セイバンモロコシ」にとって代わられてはいません。

そうこうしながら下って行くと正面に緑色のシダの群生を見ることが出来ます。私は最初「オオカグマ」かと思っていたのですが、県の博物館ネットワークセンター(宇城市)によると、「コモチシダ」とのこと。そ

の傍にはこれまた「ヘラシダ」も見られます。その両方が約500㎡にわたって群生している様は圧巻です。

更に運が良ければここで「ソクシンラン」という可愛い花に出会えると思いますよ。このように見方を変えたとお城を散策する楽しみが倍增する事間違いありません。



▲陣ノ内城跡を下った場所に生息する「コモチシダ」

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447 (内線324)

人権 心豊かに暮らすために

差別意識の解消に向けた人権教育を推進

甲佐町人権教育推進協議会総会を開催しました

7月27日(木) 町生涯学習センターで、令和5年度甲佐町人権教育推進協議会総会が開催され、甲佐町人権教育推進協議会基本方針が示されました。

●甲佐町人権教育推進協議会基本方針(抜粋)

すべての町民が心豊かに暮らすために、お互いの人権を尊重し合い差別のない、明るく住み良い地域づくりを目指す。そのため、部落差別(同和問題)を人権教育の重要な柱として捉え、あらゆる人権問題の解決のために、さまざまな機会を通して人権意識を培い、差別意識の解消に向けた人権教育を推進する。

本町では、これまでも部落差別をはじめあらゆる差別を解消するための啓発活動に取り組んできているが、単に人権問題を知識として学ぶだけではなく、身近な日常生活において、互いの人権を尊重する態度や行動を培うことのできる人権感覚を養う必要がある。今後は、町民の日常生活の中での意識

や行動に成果が表れるような啓発などを実施し、広く住民に浸透させる取り組みを強化させる必要がある。特に本年はコロナ禍で縮小を余儀なくされていた活動が再開されることへの期待に加え、第51回熊本県人権教育研究大会が上益城地区で開催される予定であることから、広く情報発信に取り組む。

●お問い合わせ先

町社会教育課

☎ 096・234・2447

(内線324)



▲甲佐町人権教育推進協議会総会で話し合う参加者たち